

第2回生駒市食育推進計画策定に係る食育部会

1. 日時 令和6年10月17日(木)

2. 場所 セラビーいこまメディカル棟 3階研修室

3. 出席者

参加者 岩橋氏、松井氏、山本氏、藤尾氏、清水氏、井上氏、中嶋氏、窪井氏

事務局 吉村子育て健康部長、渋谷健康課長、原木健康課課長補佐、辻健康課成人保健係長、村田健康課母子保健係長、村田健康課係員、生水健康課係員、神所健康課係員、日置健康課係員

4. 傍聴者 1名

5. 議事内容

1)開会

2)案件

(1)第4期食育推進計画(案)について

(2)第4期食育推進計画(案)の目指す姿について

(3)その他

3)意見交換

○ボランティア活動・PTA活動について

- ボランティア活動に協力する人がなかなか集まりにくい。ボランティア活動に参加することで、何かメリットが得られるような仕組みがあると良いと感じている。
- ボランティア組織を維持し運営することは大変な部分もある。特に学生は個人として活動しているので、強い意識がないと継続が難しい。子ども食堂などを持続可能に支援する仕組み作りが重要だと思う。
- かつては、多くの市民がボランティア活動に参加していた。講座があったら積極的に参加し、情報を吸収して帰りたいという気持ちがあった。しかし、今はインターネットやスマートフォンなどで情報を得られる時代になってきたので、だんだん希薄になっている。
- 参加型だけでは人が集まらないため、他のボランティア団体にも協力を呼びかけ、人員をシェアすることも検討すべきではないか。
- 生駒市では約180名が地域安全推進活動に参加しているが、若い人の参加が少ない。自らが率先して参加して仲間を集め、それを広めていかないと継続は難しいように感じる。
- 健康づくりや食育の推進は、地域やまち、人づくりにもつながると感じている。推進体制として地域を支えてくれる人をどのように育成するかが課題。
- ボランティア活動に参加したらポイントを付与し、何かと交換できる制度を検討している課もある。学生との連携も模索しているが、課単独での対応には限界があるため、そういった仕組みなどの情報を集めて連携を図っていきたい。

- 小学校ではPTA等の次期役員の選出に苦勞している。実際、運動会でボランティアを募ったが、集まりは悪かった。中学生・高校生のボランティアも提案してみたが、怪我などの安全面で不採用とされた。
- 大学の授業として学生が参加する場合は保険がある。また、サークル活動では、大学に活動日と内容を届けると、学生が入っている保険で賄えるような仕組みはある。
- 新興住宅地では地域の交わりが少なく、自治会や自治会活動等のイベントがないと人が関わりにくいのではないかと。
- 生駒市は、「まちのえき」というものを進めているが、これは自治会単位で定期的に、みんなでやりたいことを持ち寄って何かに取り組んでいくもの。中には、子育てに特化した「まちのえき」を作ったり、ごみのステーションを作ったりしている。高齢者が中心となって地域で活動し、若い世代を巻き込んで一緒に楽しいことをする自治会を増やしている。
- 今までみたいに市で一括してやるのではなく、「まちのえき」のように自治会ごとの取組が主流になりつつあり、形が大きく変わってきているように感じる。
- 自治会を募集してどんどん応援している状況。
- 「まちのえき」がコミュニティ単位で進めているように、全市でやるのが必ずしも正解ではないように感じる。
- 生駒市PTA協議会は、各小・中学校から代表を集めて活動しているが、脱退している学校もある。
- 5つくらいの自治会が1つになった市民自治協議会があり、そこでは1年に1回、防災も含め豚汁を焚いたりして、若い親御さんが子どもと来ていただく交流の場を設けている。こうした機会を活用してスポーツの推進をセットに入れてみたり、食育に関するパネル展示をするなどし、若い人たちの集まる場所へアプローチするのはどうか。
- 広報で募集したからといって人は集まらない。健康づくり推進員の養成講座というのを2年に1回やっているが、専門職(大学教授の管理栄養士や医師)が講師で来ると座るところないぐらい人が押し寄せている。その講座を受けた人には推進員になってボランティア活動を1年に1回でもやってくださいとお願いしているが、1人も残らないというのが現状である。
- ポイント制度などの仕組みがあれば参加者が増えることもあるが、ボランティア活動自体の「大変そう」というイメージも影響していると思う。旗を振る人たちが上手に軌道修正していくことも大切だと思う。
- PTAを引き受けたときは、「引き受けてしまった」という気持ちになるが、終了後には楽しさや満足感を感じる。しかし、その良さが周囲に伝わっていない。終わった後に絶対自分の中に糧は残っているはずである。
- 活動をしていても、その活動の良い面は知らない人が多い。そういった良い面の伝え方の問題か。仕組みを住民へ伝えていくのも、ボランティア活動の役割として重要だと思う。
- 子どもたちは親の行動を見ている。親が地域で活動している姿は、子どもにも伝わっていると思う。

○地産地消について

- 農業で最も大変なのは気候であり、今年は暑さと少雨の影響で農業祭に出品する作物も不足している。給食センターで地元の農産物を提供できるのが理想だが、収穫量が限られている。子ども食堂では、生駒の農家が少し変形した農産物を持ち寄るなどして、食品ロスを減らし SDGs につなげる取組ができれば良いと考える。
- 規格外の農産物を市民に広く知ってもらい、手に取ってもらうことが大切。

○朝食について

- 子どもが、小学校へ行くようになってから朝食を食べなくなった。朝食を取らずに登校して昼まで過ごしているが、空腹を感じていないようだ。こういった子が増えていることが、会議資料のデータからもうかがえる。

→ 個別の事例もあるのかもしれないが、朝食を取らない子が増えている現状を再確認した。

○子ども会活動について

- 生駒市全体で子ども会の活動が減少している。かつては子ども会の集まりで母親たちが子どもについて情報交換をしていたが、現在はデジタルで情報を得ることが多くなり、こうした交流が減少している。

○健診について

- 各小学校で肥満や痩せのデータが出ていると思う。学校内科検診で異常を指摘された人が何人いるか等のデータを入れたらどうか。また、成人の場合は健康診断の受診率等のデータを把握することで、食育を推進する上で市民にアピールできるのではないかな。

→ 学校健診でのデータの活用について検討する。

○イベントについて

- 県の小児科医会では子ども健康フェアを行っているが、食育イベントが含まれることは少ない。東京では親子が参加する食育イベントも盛況であり、健康チェックや食育に関する啓発イベントを企画してはどうか。

→ 奈良市では食育団体間のネットワークがあり、イベントに参加する団体同士で活動を紹介し合っている。生駒市の食育推進計画にも、フェアの開催という新たな取組提案があるので、興味のある委員の参加を期待している。

→ コロナが収束し、ようやく食育活動を積極的に進められる状況になった。今後、団体や企業との連携を図り、少しずつでも始めて大きくしていきたい。

- 過去20年間、健康祭(福祉と健康のつどい)に関わり骨密度測定や試食提供を行ってきたが、それが終わってしまったのが残念。

→ 健康に特化したイベントを長年行ってきたが、現在は介護やケアにフォーカスしたイベント(ケアリンピック)に移行している。また、市立病院では健康フェスティバルを開催し、禁煙週間に合わせて禁煙の取組のイベントを実施している。それと同時に、食に関するイベントも実施するなどしているが、新たな取組提案にあるフェアはこれから検討していく。

- ぐらしのブンカサイというイベントがあったり、SDGsアクションネットワークには、企業や社会福祉法人など様々な団体が入ったりしている。そういったところと繋がれば、いろいろな方向に向かって広がるイベントもできるのではないかな。市内でも横の繋がりを活用することで、市民の活動も促進される。

→ ぐらしのブンカサイをはじめ、他課のイベントにも積極的に関わっていきたい。また、食育関係の内容をホームページなどでアップされている団体も多いので、そういったところと協働することも検討する。

- 過去にやっていた魚料理のイベントでは、育児ネットや子どもたちが参加してくれていた。子どもたちがイワシの調理に挑戦し、参加を通じて、イワシが食べられるようになった例もある。ネットで画面を

見ているだけではなく、そういった参加型も必要だと思う。参加してイワシの血がついて血だらけになるなど、怖いや気持ち悪いと感じても、食べたら美味しかったという体験はすばらしい経験になると信じている。

○第4期食育推進計画について

- 第3期食育推進計画の中身を取りながら、変えられるべきところは変え、残すべきところは残すという形だと思うが、体系が整理され、わかりやすくなった。第3期の評価で悪化している点は、小中学生、高校生に関することなので、子育て世代のところにいかに響くかが課題だと思う。イベントを開催するにしても、そこに訴えることが重要だと感じる。どうしてもデジタルでわかった気になることがある。やはり、リアルで体験することはとても大切で、この世代に訴えていくには、いかにわかってもらえるかである。デジタルを導入しつつ、実際に体験できる機会を増やしていくことが鍵となる。
- デジタルは導入部分として活用する。食べ物は実際に見ないと匂いも味も温度もわからないため、そこから実体験を通して理解を深める方法を模索していきたい。

○災害の備えについて

- 新しい取組の「災害の備え」というのがすごく良い。この夏には南海トラフ地震臨時情報もあったが、まずは各自で備えていくことが求められる。そこから、まちのえきなどにうまく落とし込んでいけば自助が共助に繋がり、良いサイクルができるのではないかな。防災食も、離乳食や、キャンプのように洗い物を減らしたいときなど、普段の生活にも活用できる。もっとハードルを低くしていけたら、うまく繋がるのではないかな。
- 防災安全課など、他課との連携も意識していきたい。

○目指す姿について

- 「今日食べたものが明日あなたを作る～食の大切さを見直し、心身の健康につなげよう～」というスローガンが、個人レベルで最も共感を得やすいと感じる。一番個々人の心に響きやすいのではないかな。また、そこから先に繋がることも大切である。
- 今回の話題に「繋がり」のテーマが出ていた。皆さんの意見を聞きながら思っていたので良かったと思う。
- “目指すべき姿”として、現状に不足している要素を掲げることが重要ではないかな。やはり「今日食べたものが明日あなたを作る～食の大切さを見直し、心身の健康につなげよう～」は、未来が今と繋がっていることを子どもたちに伝えたいという意図が強く込められていると感じる。
- 「作る」は漢字ではなくて、ひらがなで良いかなと思う。

4)その他

- ・スケジュールについて

5)閉会